

キューバ外務省声明

去る10月20日、広範な国民参加の下で大統領選が実施され、ボリビア国民はエボ・モラレスをボリビア多民族国大統領に選んだ。国内・地域内右翼による工作や帝国主義、徹底したメディア戦争に打ち勝ったモラレスの歴史的な勝利は同時に、「パトリア・グランデ」（大きな祖国）全体の勝利でもある。

選挙当局及び投票で示された国民の負託を認知せず、ボリビアの野党勢力は米国と地域寡頭支配層の支援と誘導を得てクーデターを実行し、国民の目から選挙結果を覆い隠そうとした。野党のクーデター戦略によって国内で激しい暴力行為が展開された結果、死者と数百人の負傷者が出た。糾弾すべきことに、先住民への人種差別的な行為も見られた。

キューバ共和国ミゲル・ディアスカネル大統領は「合法的なボリビア大統領に対するクーデターが進行している。野党は選挙の敗北を認めようとせず、憲法秩序に反して暴力に訴えている」と表明した。

我々は合法的なボリビア大統領に対するクーデターを強く非難し、すべての関係勢力に向けて、この危険な工作をやめるよう呼びかけるものである。これはボリビアと地域全体の安定にとって脅威である。

エボ・モラレス大統領は各政党にボリビアの和平に向けた対話を呼びかけた。呼びかけは改めて公正性と政治的資質を示すものであり、我々はこれを支持する。モラレス大統領はさらに、暴力的なデモの主催者らに「深い反省」を呼びかけ、国民には民主主義を擁護するため結集するよう求めた。

キューバ政府と国民は、ボリビアの合法的に選出された大統領であるエボ・モラレス、ならびに同氏が大多数の利益を目的に進めている「変革プロセス」に対し、確固たる支持を表明するものである。同プロセスは反論不可能な成功を収め、素晴らしい経済成長や先住民の権利要求をはじめとする目覚ましい社会的前進が達成された。我々は国際社会に向けて、正当性と和平の側に立つよう、国際法及び「ラテンアメリカ・カリブ海の平和地帯宣言」の基本理念を遵守し、帝国主義と寡頭支配層によるクーデターを糾弾するよう、呼びかけるものである。

2019年11月9日、ハバナ